

＜全体分析＞

試験時間 75分

解答形式

記述、選択の他、字数指定の論述が3問、計算が8問出題された。

分量・難易（前年比較）

分量（減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加）

難易（易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化）

出題の特徴や昨年との変更点

昨年は2問出題された描図問題がなかった。また、昨年は総字数530字で、100字程度の長文論述が出題されたが、今年は総字数が130字と減少した。計算問題は、昨年の3問から8問へと増加し、読解力を必要とする難問も出題された。

その他ピックアップ

＜大問分析＞

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
[1]	記述 選択 計算	固体地球	地学基礎 地学	地震と地磁気について出題された。 問3では、柿岡の偏角の大きさなど細かい知識問題が出題された。また、問題文が長く、読解力が必要だった。	易
[2]	記述 選択 論述 計算	地球の歴史	地学基礎 地学	地質時代区分について出題された。 問7の $^{40}\text{K}/^{238}\text{U}$ の値を求める問題は、それぞれの壊変後の原子数を求めて計算するとよい。	やや難
[3]	選択 論述 計算	大気	地学基礎 地学	地球型惑星の気温の高度分布について出題された。 問5は、図1と表1を読み取って計算する必要があり、難しかった。また、問4で求めた数値を問5の計算で用いる連動問題となっていた。	難
[4]	記述 論述 計算	宇宙	地学基礎 地学	太陽について出題された 計算問題は昨年の2問から3問に増えたが、すべて易しかった。	易

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

＜学習対策＞

地学のほぼ全範囲から出題されており、基本的だが正確な知識を必要とする問題が出題されているので、「地学基礎」と「地学」の教科書をよく読んで基礎固めを行い、地学現象をしっかりと理解する必要がある。宇宙分野では、煩雑な計算問題が出題されることも多いので、問題演習をしておこう。また、今年は見られなかったが、字数が多い長文論述問題が出題されることもあるので、添削指導を受けるなどの論述対策を行うことが必要である。